

畜産

実況

1 平成28年度第5回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成28年6月6日）

		頭数	単価 (円)	販売価格 (円)	枝肉重量 (kg)	BMS (No.)	ロース芯 面積 (cm ²)	上物率 (%)
去勢	福井	13	2,732	1,339,538	490.3	6.9	55.8	100
	全体	34	2,633	1,260,690	478.2	6.9	56.7	88
雌	福井	6	2,729	1,245,004	457.0	7.3	56.7	100
	全体	14	2,479	1,092,389	439.1	5.7	55.4	71

全体の最高価格は、1,561,716円、去勢牛(花国安福×安平照×安福165の9)、28.9カ月齢、A-5(BMSNo12)、枝肉重量553.8kg、ロース芯面積68cm²であり、出生地は石川県であった。福井の枝肉単価は、前回より、去勢で57円高く、雌で108円高かった。

2 平成28年度第6回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成28年6月20日）

		頭数	単価 (円)	販売価格 (円)	枝肉重量 (kg)	BMS (No.)	ロース芯 面積 (cm ²)	上物率 (%)
去勢	福井	10	2,726	1,313,190	483.9	6.9	59.3	80
	全体	30	2,592	1,204,029	464.5	7.2	57.4	87
雌	福井	3	2,732	1,203,919	441.8	5.7	53.3	100
	全体	13	2,413	1,056,171	439.0	6.2	55.5	85

全体の最高価格は、1,528,665円、去勢牛(美津百合×福栄×金幸)、26.3カ月齢、A-5(BMSNo8)、枝肉重量508.2kg、ロース芯面積59cm²であり、出生地は福井県であった。福井の枝肉単価は、前回より、去勢で6円安く、雌で3円高かった。

対策

■ 今月の重点ポイント

- ・牛体への送風や水槽の増設、清潔な飼槽等の対策を実施して暑熱ストレスを緩和し、生乳生産、繁殖、増体への影響を防ぐ。
- ・正しい搾乳手順の励行や牛体管理の徹底を図り、乳房炎の新規発生を防ぐ。

1 乳牛

(1) 暑熱対策

夏の暑さにより乳量や受胎率が低下したり、乳房炎が多発するため、影響を最小限に抑えるよう、早めに以下の対策を講じる。

- ① 牛舎内温度の上昇を抑えるため、日よけ、すだれ等で直射日光を遮る。畜舎内の換気量を増加させる。大型扇風機やダクトファンで体感温度の低下を図る。
- ② 水道配管の整備を行い、ウォーターカップの吐水量を確保する。水槽の汚れはこまめに掃除し、清潔な水が十分に飲めるようにする。
- ③ 飼槽は、常に清潔な状態を保ち、飼料の給与回数や掃き寄せ回数を増やし、採食量の向上を図る。
- ④ 嗜好性の良い粗飼料を給与するとともに、栄養のバランスをとり、塩やミネラルを補給する。

(2) 乳質管理

- ① 気温と湿度の上昇で、畜舎内は細菌が増殖しやすい状態にある。牛床に十分な敷

料を入れるなど管理を徹底し、乳房を清潔に保つ。

- ② 正しい搾乳手順を励行し、乳房炎の新規発生を予防する。
- ③ 生乳中の細菌数が増加しやすい時期となっている。搾乳機器の洗浄及び殺菌は、定められた洗剤・殺菌剤の濃度と水温を厳守する。また、生乳中の細菌数を報告毎に確認し、異常を発見したらミルカーシステムの工程に問題がないかチェックする。
- ④ バルククーラー内部の洗浄状態を確認する。特に、自動洗浄装置付バルククーラーであっても過信せず、洗浄不良になっていないかチェックする。また、生乳が設定したバルク冷却温度で貯蔵されているかを確認し、異常を発見した場合は速やかに専門業者に連絡し、冷却装置（コンプレッサー等）の性能を確認する。
- ⑤ 搾乳前にはバルククーラー冷却装置の起動、排出コックの確認等、見落とししやすい作業を確実にチェックする。また、抗生物質混入防止のため、治療牛のマーキング（カラスプレーやバンド等）を確実にを行い、搾乳作業者間での事務連絡と確認を徹底する。

2 肉用牛

（1）子牛の暑熱対策

- ① 暑熱により体力が消耗し下痢を発症することがあるので、分娩前の牛房内および子牛居住場所の清掃や、石灰塗布等による消毒を実施する。また、換気や遮光等、畜舎内外で暑熱対策を行う。
- ② 給水器をこまめに清掃し、常に新鮮な水が飲めるよう環境を整える。

（2）肥育牛の暑熱対策

- ① 暑さによる増体の低下や、ストレスによって肉色が濃くなる等の影響が出るため、新鮮な水の給与や換気・通風による暑熱対策を行う。
- ② 給水器はこまめに清掃し、飲水量を確保する。
- ③ 排尿を観察し、尿石症の早期発見に努める。
- ④ 夏期の採食行動は、日中よりも朝夕に集中する傾向があるので、この時間帯に十分採食できるよう飼料給与時間を調節する。
- ⑤ 採食状況を確認し、残飼が多い場合は、濃厚飼料の多回給与や餌寄せを行う。残飼やだ液・飛沫した糞が付着した飼料の除去など、こまめな対応により採食量低下を防止する。